

2021年度「実践予報技術講習会（2日コース）」のご案内

2021年度の「実践予報技術講習会(2日コース)」は、1回目「天気予報」と2回目「週間天気予報」で、それぞれ2日間の日程で開催します。

1回目と2回目を、それぞれ募集します。

1. 講習期日

【1回目「天気予報」のコース】

1日目 2021年12月4日(土) 13時30分～16時30分

2日目 2021年12月11日(土) 13時30分～16時30分

【2回目「週間天気予報」のコース】

1日目 2022年2月19日(土) 13時30分～16時30分

2日目 2022年2月26日(土) 13時30分～16時30分

2. 講習対象者

この講習会は気象予報士の資格を有している方で気象に関する業務に従事している方のほか、気象に深い関心をお持ちで、気象の解析・予報の技術を習得したいと考えておられる方を対象としています。

講習の内容は特に高い専門性を必要とするものではありませんので、気象に関わる業務に従事した経験がない方でも興味を持って受講していただけます。

【受講の条件】

本オンライン講習会は、オンラインミーティングツール「Zoom」システムを用いて行います。そのため、この「Zoom」システムを利用できることが必要です。また、実習及び質疑・応答の際に音声及び画像の共有ができることが必要です。

3. 講習のテーマ

テーマは『各種の天気図、解析図等の利用と事例を用いた資料の検討・解釈』です。

4. 講習目標

天気予報及び週間天気予報について、天気図等の実況資料と予測資料の見方、利用のポイントなどを習得します。

また、ある事例日の天気図、解析図を用いて資料の解析、解釈、予報への翻訳の着眼点の整理などを行い、現象を理解するとともに実況から予測までの一連の予報作業について理解を深めます。

受講後は天気図や解析図などの資料を利用して自ら知見を広げ、業務や身のまわりの様々な場面で応用できることを目指します。

5. 講習の内容

【1回目「天気予報」のコース《12月4日・11日》】

講習の1日目は、天気予報で利用する実況及び予測資料について、資料の読み方や解釈のポイントを解説します。また、レーダーや気象衛星資料の見方、利用上の留意点などについても解説します。

2日目は、冬季12月のある日の事例を用いて各種資料の解析、検討、解釈の作業を実習形式で行います。実習形式の作業を通じて各種天気図に描かれた等圧線や等高度線、渦度や鉛直流などの物理量の解析、解釈などを通じた現象の理解、予測資料の読み取りのポイントなど予報に関わる技術を習得します。また、この事例を通じて、冬季の防災に関わる検討も行います。

【2回目「週間天気予報」のコース《2月19日・26日》】

講習の1日目は、週間天気予報で利用する実況及び予測資料について、資料の読み方や解釈のポイントを解説します。また、日々の予報〔短期予報〕とは異なる広い範囲の場の特徴や資料の着目点などについても解説します。

2日目は、春季4月のある日の事例を用いて各種資料の解析、検討、解釈の作業を実習形式で行います。実習形式の作業を通じて週間天気予報に関わる限られた資料の中から、天気の推移のポイントなど予報に関わる技術を習得します。また、日々の天気の推移の考察を通じて、春季の天気変化の特徴、防災に関わる事項などについても考えます。

6. 講習の進め方

講習は特に予報に関する高度な知識や業務での経験は必要ありません。また、実習作業で用いる資料は気象庁や民間気象事業者のHPなどでいつでも容易に入手できるものを使います。

初めに天気図や解析図などの利用上のポイント、資料を用いた作業の進め方について説明します。その後、用意した資料を用いて実況資料から予測資料まで順を追って作業を進めていきます。

天気図やその時に現れる現象などに関心や興味を持っている方にとっては、天気図を通じて現象をさらに深く理解するきっかけとなるものです。

また、講習は基礎的な内容を中心に進めますが、今回は普段比較的接する機会の少ない週間天気予報に関わる演習も行います。すでに予報の作成や解説業務に従事している方にとっても新たな知見の習得につながるものと思います。

なお、講習の1日目で使う資料については、事前〔1週間程度前〕に紙ベース及びファイルで送付しますので、できれば当日までに目を通して予習をしておいてください。当日、一部は概要の説明にとどめて、詳しい説明を行わない場合もありますので、ご承知おきください。

2日目の演習の資料も同様、1日目の講習後に送付します。

質問については、講習会前までに講習内容に関連するものを受け付け、講習当日にご質問に答えるよう努めます。また、講習後も一定期間内に質問を

受けます。頂いた質問に答えるよう努め、受講生全体に提供します。なお、全体に答えることができない場合もあることも、承知おきください。

7. 講師

講師は、気象庁本庁において永らく予報現場の責任者として指導、管理に携わってこられた元気象庁予報課長の村中 明氏です。

現在、気象業務支援センター 特任講師

NPO 環境防災総合政策研究機構 理事

東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 講師〔非常勤〕

退職後 これまでの講演・講師一覧

気象大学校、政策大学院大学、国際協力機構〔JICA〕、日本気象予報士会、日本防災士会、自治体〔県、市町村〕 等

気象防災〔タイムラインの構築 等〕に関わるアドバイザー業務

高知県、熊本県、長崎県、岡山県、岐阜県、大阪府、広島県などの市町村

著作〔共著〕一覧

- ・『防災事典』 日本自然災害学会 監修 築地書館 2002年8月
- ・『気象予報士ハンドブック』 日本気象予報士会 オーム社 2008年11月
- ・『災害情報論入門』 田中淳、吉井博明 編集 弘文堂 2008年12月
- ・『災害情報学事典』 日本災害情報学会 編集 朝倉書店 2016年3月 など
- ・『水害読本』 命を守る水害読本編集委員会 毎日新聞出版 2017年7月

8. 教材

当日使用する講義資料の概要をテキストとして配布します。

9. 募集定員

30名（先着順）

10. 受講料（教材費を含む）

7,040円（6,400円 + 消費税）

11. 申込方法

「受講申込書」に必要事項をご記入の上、下記の申込先へ電子メールでお申し込みください。受講の申込みは先着順です。

メールより受講の受付け後、受講料の振込先をご連絡しますので、受講料を指定の銀行口座にお振り込みください。

また、請求書・受領書等を必要とされる場合は申込書備考欄に名義と必要書類をお知らせください。

なお、一旦納入された受講料の返金には応じかねますのでご承知置き願います。

宛 先

(一財) 気象業務支援センター 「講習会」 担当 宛

E-mail : methiroba@jmbsc.or.jp

12. その他

今般の新型コロナウイルスにより、今回の募集に関し中止させて頂く場合もあります。その際には弊センターホームページにてお知らせしますので、予めご理解とご協力をお願い致します。

また、その際には、受講料は返金させて頂きます。